

【多胎児の親への支援について】

「多胎育児のサポートを考える会」などが行ったアンケート調査では、多胎児の親の、実に93%が、子どもに対してネガティブな感情を持ったことがあると回答。東京都は2020年度の新規事業として多胎児家庭支援事業を立ち上げ、市でも同様の事業が予算化されている。多胎児の親が求めている支援は経済的支援だけではないと考えるが、今後、どのような視点に立った支援を充実させていく考えか。

<答弁>

市は、助産師や保健師、看護師による、こんにちは赤ちゃん訪問事業や乳幼児健診、相談事業、養育支援訪問事業などを通じて、乳幼児の健康管理だけでなく、保護者の体調や育児不安等について丁寧に伺うための面談を行い、家庭状況に応じた心身の健康をサポートしている。

その中で、多胎児世帯における保護者の経済的、身体的負担は特に大きいものと認識。産前・産後支援ヘルパー事業、ベビーシッター利用料助成については、平成29年度に、多子、多胎児世帯が利用できる日数の拡大や利用限度額を引き上げるなど制度の拡充を図ってきた。

来年度に向けては、ベビーシッター利用料助成事業の利用限度額を、多胎児の人数に応じて段階的に増額して助成できるよう、制度の拡充を予定。また、多胎児の家庭育児用品等の購入支援の事業を創設。子育て家庭の実態を踏まえながら、各種サービスの充実に努めていく。